

2世代の未来

地域×脱炭素



長浜からゼロカーボンの世界へ

西浅井でプラスチックの材料のお米作り



西浅井は琵琶湖の北端に位置する



▲西浅井産のお米を使ったおにぎりや豚汁をいただいた



▲ゼロカーボンシティ記念シンポジウムにて話される浅見市長

7月4日に長浜市ゼロカーボンシティ宣言記念シンポジウムがあった。このシンポジウムにて浅見宣義市長は「長浜市で作った再生可能エネルギーを地域内で回すことでエネルギーの地産地消をすることができ、さらに地域の魅力を高めることもできる」と話された。また「このように再生可能エネルギーが少くない街でしかできず、それが地方の強みです」とも話されていた。湖北環境経済協議会会長の高橋康之さんは「経済が大事と言ってももらえるのはワケワカシマス」とコメントを残された。

長浜市は令和4年3月20日に2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを指す「長浜市ゼロカーボンシティ」を宣言した。これに関わって新聞部は長浜で行われている脱炭素活動について取材した。

長浜市がゼロカーボンシティ宣言 2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロに

プラスチックの材料になるのが楽しみ

初めて田植え機に乗って来て意外と真っ直ぐ進むのが大変だと思いました。また、手植えも泥に足を取られ歩くのが大変でした。この苗がプラスチックの材料になるのが楽しみです。(鈴木海成)

田植えを通してその大変さを学ぶことができました。田植え後に食べたおにぎりは普段何気なく食べているお米を自分の手で作ることでよりおいしく感じました。(渡辺翔子)

見ているだけなら気楽に運転できそうな田植え機ですが、真っ直ぐに運転するなど、実はいろいろなことに気をつけなくてはならないことがわかりました。また、その土地ならではの発電方法や最新機器を使った米作りなど地域の取り組みを知ることができ、とても勉強になりました。(杉本和葉)

田植え機を操縦する部員



田植えの説明を受ける部員たち



▲田植えの説明を受ける部員たち

6月12日 田植え

▲ライスレジンの田植えをする部員たち

6月12日に新聞部は西浅井でライスレジンの材料となる稲を育てる田植えに参加した。

西浅井から始める脱炭素

長浜では現在、脱炭素を通して地球温暖化や気候変動のような環境問題に取り組む動きが活発になっている。桐畑さんは「長浜で脱炭素に取り組むことで世界のためだけでなく、長浜自身を環境と調和した良い街にしていくことができます。そして、その一つの取り組みの事例として西浅井で行われている取り組みを見てほしいです」と言われた。その取り組みの一つがこの田植えである。この田植えからできたお米はライスレジンの材料になる。桐畑さんは西浅井での取り組みについて「長浜で脱炭素に取り組んでいこうと思うと西浅井を一つのモデルとして考えてエネルギーをどう自給しているか、例えば水が豊富だから水力発電ができなにか、というようなことを考えるとすごく良いと思います」と話された。西浅井について、この田んぼの持ち主で地域を盛り上げる幅広い活動を展開している「ONE SLASH」代表の清水広行さんは「滋賀県の中でも西浅井は温暖から里、田んぼ、川、そして琵琶湖という水の流れをすべて意識しやすく、そこに脱炭素という文脈を入れていくとすごく良い地域だと思います」と話してくださった。自然豊かで再生可能エネルギーを生み出しやすい西浅井のような地域は、これから長浜市の脱炭素活動の中心となりそうだ。

水の流れが意識できる土地



▲西浅井について説明してくださる清水さん



▶ライスレジンの製品を紹介されている磯井さん(左)

▶万博仕様のポリ袋

▲ライスレジンをを使った製品

ライスレジンは食用に最適な国産米を混ぜたプラスチックだ。ライスレジンを焼くことで焼却時の二酸化炭素の排出を抑えたり、排出された二酸化炭素を吸収したりできる。なんと日本のポリ袋をライスレジンの変えることで年間338トンもの二酸化炭素を削減できるようだ。さらに湖北のエネルギー問題に取り組む「エネシフ湖北」の桐畑孝佑さんは「海外の石油を使えばお金は海外へ渡ってしまいがちですが、地域のお米を使うことでお金が地域で回り、経済も地域だけで回していくことができます」と説明してくださった。

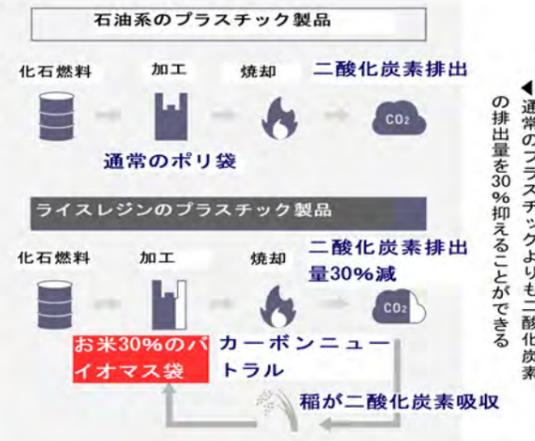
ライスレジンを作っている株式会社バイオマスレジンは「ホールディングスの磯井裕さんによると、新潟の南魚沼から始まり、熊本、福島と各地に製造工場が建てられている。ライスレジンはカーボンニュートラル(温室効果ガスの排出量と吸収量を均等させること)を実現するための活動としてとても良いものになりそうだ。

お米でできたプラスチック ライスレジンは 二酸化炭素排出を減らす



▲ゼロカーボンシティ宣言記念シンポジウムにて話される高橋さん

ポリ袋を変えるだけで 二酸化炭素排出量30%減



▲株式会社バイオマスレジンは「海外の石油を使えばお金は海外へ渡ってしまいがちですが、地域のお米を使うことでお金が地域で回り、経済も地域だけで回していくことができます」と説明してくださった。

自分で植えたものを自分で



▲稲刈りをする部員
▲コンバインにも挑戦

10月9日 稲刈り

詳細は次号で

2 世 代 の 未 来

今 は 発 電 し て も 他 所 の も の

バイオマスアグリゲーションの近くの水田の中には豊かな農業用水を利用した水力発電があった(=写真・下)。

この発電装置は県外に本社がある企業が設置したものだそう。しかし、このままではせっかく発電しても、できた電気は設置した企業のものになり、地域には還元されない。

自然豊かな長浜ならでできる

エネルギー代金 300億円が市外に

桐畑さんによると、長浜市のエネルギーの代金として約300億円が市外に流れているそうだ。「地域の人が出資してこういった発電装置を作って、できた電気を地域で使えば、お金もエネルギーも地域で回るしくみができる」と桐畑さんはおっしゃった。「そんなまちづくりができれば、地域の魅力も上がるし、自然が豊かな長浜にはそのポテンシャルがある」と上田さんは長浜の可能性を話してくださった。



▲工夫された住宅

家中が暖か

暖房や給湯には化石燃

ルギーを使わない工夫がされている。

料を使わず、木質チップの熱エネルギーを使っての配管に、ポイラーで温めたお湯がめぐって家中を暖める構造だ。ヨーロッパではこのような暖房が各家に普及しているそう

まずは省エネ

久木さんの家はエネルギーの消費を抑える工夫された家の作りになっている。風通しを良くし、ひさしの長さを工夫して夏の日差しは遮り、冬には陽が届くように設計されている。断熱もしっかりしていて「魔法瓶のような家」でなるべくエネ



◀ポイラー室の前で説明してくださる久木さん。

エネルギー

目指す

エネルギーの

木之本でバイ

経済

だ。さらに地域でも熱供給のプラントから街中めぐらせた配管にお湯を巡らせて暖房に使う取



バイオマスアグリゲーション

地域で連携を

社名の「バイオマスアグリゲーション」の「アグリゲーション」は「束ねる」という意味だ。久木さんは「誓いを込め名づけた」と話される。「地域で連携して、今、長浜の脱炭素をやる人を統合していくのが大事」と話された。



▲まきストーブも利用

虎論

年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロにするという長浜市のゼロカーボンシティ宣言は一見すると難しい目標に思える。今の高校生が40

脱炭素で長浜を創生

代のとしまでにだ。今までの経済の仕組みでは、化石燃料を使って社会を動かした方が、安価で経済的と考えら

れていた。しかし、それでは目標が達成できない。今回長浜の脱炭素の取り組みを取材して分かったことは、脱

作る取り組みのように地域創生と脱炭素の両立を目指し脱炭素でも経済が回る仕組みを作らなければならない。そして長浜は、

炭素で地域創生もできるといことだ。そのためには、ライフレジンを作る取り組みやバイオマスエネルギーを私たちが、次世代のことを考えてこれからの社会を持続可能にできるようにしなければならないと思う。

「みんなが主役」

長浜市総務部政策デザイン課 安藤和人さん



長浜市のゼロカーボン宣言にかかわっておられる安藤和人さん。「2050年には再生可能エネルギーを普及させ、うまく使う仕組みが必要」と話される。それも長浜で作りの、生み出したエネルギーを長浜で使う「エネルギーの地産地消」の仕組みだ。「そういう社会をめざそう、ということだけど、それにはいろんな人の力がある」とも。高校生に向けて「2050年、高校生のみんなは40代半ば。まさにみんなが主役の話です」と高校生に期待を込めて話された。

地域×脱炭素



長浜市木之本にある「バイオマスアグリゲーション」の久木裕さんに話を伺った。

バイオマスって？

「バイオマス」とは生物資源 (Bio) の量 (mass) を表すことばで一般的には「化石燃料を除く、再生可能な、生物由来の資源」を指している。「バイオマスエネルギー」にはさとうきびやとうもろこしなどもあるが、木之本の「バイオマスアグリゲーション」では熱エネルギーとして使うため、木材をチップに変えて

1立方メートルの杉で半年間のお風呂が沸かせる 「木質チップの熱量はすごい」

いる。1立方メートルの杉の木で175杯分、約半年分のお風呂が沸かせるエネルギーを持っているそうだ。「木の持っているエネルギーがすごい。これを給湯や暖房に使えば、海外から石油

を買わなくても地域でエネルギーが賄える」と久木さんは話された。

なく、今度は地域にお金が回っていく」と話された。「バイオマスは燃料を木で作ったり、山で木を切ってきたりと地域との関わりがあるから地域の経済循環の連鎖が起きてくる。それがバイオマスの魅力」と話された。

エネルギーも「地域で回す仕組みが大切」と繰り返し話された。

単価は安い 普及に課題

コスト面では木質チップと灯油を比べても同じ熱量当たりで単価は灯油の半分からい、LPガスと比べると4〜5分の1くらいという。「燃料としての単価は安い。バイオマスは高くても珍しいものではなく、実は安いものだけど、普及していかないのが課題」と今後の課題を指摘された。



▶機械でチップに。



▲チップの原料となる製材端材

木質チップ

のは 地産地消

バイオマスを取材

森林

▶長浜は山地が多い。学校の近くから見た伊吹山(上)と小谷山(右)。

再生可能エネルギーに取り組む

魅力ある長浜

インパクトラボ
上田隼也さん



県内の再生エネルギーに詳しいインパクトラボの上田隼也さん。「県南部ではいろいろな自然を使えるのが魅力」と長浜の魅力を話した。

自然がある限り使える

エネシフ湖北
桐畑孝佑さん



エネシフ湖北の桐畑孝佑さんは学生時代にCOP(国連気候変動枠組条約締約国会議)に参加し、気候変動に関心を持ったそうだ。「化石燃料とは違って自然の再生エネルギーは自然がある限りはずっと使える。それを地域で回す仕組みが大事」と話された。

発電を変える

高校生プロジェクト
高島峻輔さん



長浜市の「高校生プロジェクト」を引っ張る高島峻輔さんはハーバード大学で再生可能エネルギー学ばれていた。「二酸化炭素の排出量が今、一番多いのは電力。発電を変えていくのが大切で、二酸化炭素を出さない電力を使うのがすごく大事」と話された。

異常気象が変える

迫られ

豪雨や台風

災害に備える

長浜市役所に聞く

長浜市の災害被害について長浜市防災危機管理局の井益高彦さんと富永耕平さんにお話を伺った。



▲7月の大雨で長浜市木之本町大見で発生した土砂災害

風の被害が大きい 一部では土砂崩れも

まず、豪雨や台風などでは長浜ではどこかで被害が出ているか聞いた。今年の7月6日から8日にかけての大雨は7月の長浜の6時間の最高記録を更新した。木之本や西浅井で土砂崩れがあり、竹生島でも一部が崩れるなど、雨では山際の被害が大きいそうだ。虎姫だとJRの下の道路(アンダー)が水が漬くことがある。木之本でも道

▲土砂崩れが発生した竹生島(7月)

が水没して車を救出した事案もあったとのこと。ただ一般の住宅の被害は雨よりも強風による被害が多く、平成30年の台風21号の時は、特に建物への被害が大きかった。市内の学校では台風21号の強風で、防護ネットが倒れる被害が発生したそう

民間の施設も 避難所に

指定避難所については浸水想定や耐震基準を満たしているかなどで9月7日に見直しを行ったばかりだ。井益さんは「今回からイオンやアルプラザの立体駐車場、えきまちテラスなど民間の施設も一時避難所として使わせてもらえるようにした」と話してくだ



▶防災マップを手に丁寧に見せてくださる井益さん

最近では滋賀県の防災情報システムで危険箇所

がわかりやすく見られるようになってきているので避難に役立てることができるといいます。しかし道が浸水すると避難経路の確保が難しくなるという課題がある。虎姫ではJRの下の道路が浸水する可能性があるが、道路については、県道なら県、市道なら市というように管理主体が整備をされるそう。また、姉川や高時川などの大きな川は県が計画的に整備をしているとのことだ。

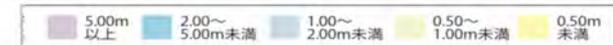
ハザードマップは県が

危険箇所を知ることが大事

国土交通省の計算式を元に千年単位で一度降るかどうかの雨を想定して出したデータと、県が独自に200年に一度の想定で別の計算方式で出したデータを合わせたで作られている。長浜市のハザードマップを見ると虎高周辺は浸水予想が2mから5mが多く、虎姫駅周辺では5m以上のところもある。



▲「他人事と思わずに」と話してく下さる富永さん



高校生に伝えたいことを伺うと井益さんは「基本的には自分たちが住んでいる所どこが危ないのか、まずは知ってほしい。何が危ないのか知ること対策や準備ができる。知っていたくことが一番大事」と熱心に答えてくださった。

富永さんは「他人事と思わないことが大切です。自分には自分たちが住んでいる所どこが危ないのか、まずは知ってほしい。何が危ないのか知ること対策や準備ができる。知っていたくことが一番大事」と熱心に答えてくださった。

虎論

今年の夏はいつも通りか、夏の夏とはいかず、異常気象と言われる豪雨・酷暑、そして昨年末より猛威を振るう「新型」コロナウイルス

高校生が守る未来の環境

と過ごした夏だった。例年以上の暑さの中、コロナ対策としてマスクを着用しての生活となった。数々の災害が日本、そして滋賀にも

をもらたした。しかし、豪雨や酷暑をはじめとした異常気象は滋賀やこ虎姫も例外ではない。「明日は我が身」という言葉があるよ

また、気候変動の代表である温暖化も、今回の取材等を通して、一人ひとりが対策をとることで多少なりとも抑えることができる

襲った。その中でも、特筆すべきは豪雨だろう。7月には「線状降水帯」という言葉が世間に広がった。線状降水帯は主に九州に被害

うに、いつ自分に起こってもおかしくないと考え、常に備えておくことが、これからの時代に大切なことだろう。

今だからこそ現在だけでなく、100年後の環境について考え、行動に移すことが私たちに求められていることではないだろうか。



滋賀の未来

環境問題はすぐそばに

滋賀県庁に聞く

身近なものから意識を

る環境への意識



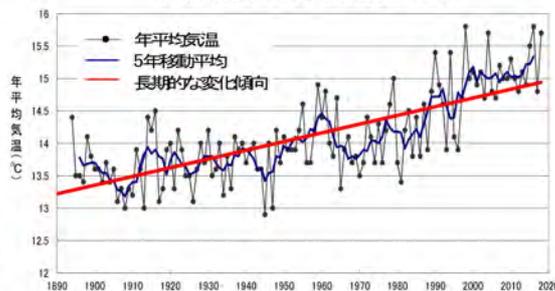
▲Zoomを通して取材を行った。左から廣田さん、萱原さん、澤井さん

今後100年間で滋賀県の環境の変化について温暖化対策課の廣田さん、萱原さんに伺った。100年後については「過去100年間で彦根では約1・35℃上昇しました。滋賀県の今後については積極的に対策を進めた場合は今後100年間で2・9℃、そうでない場合は4・3℃上昇すると予想されています」とのこと。「降水量については現状増加は見られませんが、集中的な雨は増えています。今後、温暖化の原因

100年後は2.9℃～4.3℃上昇

近年話題になっている「異常気象」。その影響は滋賀県にも出てきている。これからの気候はどうなるのか。
そこで、1・2年各3クラスにアンケートをとり、滋賀県庁温暖化対策課の廣田大輔さんと萱原慧悟さん、循環社会推進課の澤井幸野さんに今後100年で予想される未来などの取材を行った。

滋賀県(彦根)の年平均気温変化(*1)



▲滋賀県の年平均気温変化(1890～2020年)の推移。明らかに上昇しているのがわかる。

21世紀末の滋賀の気候予測

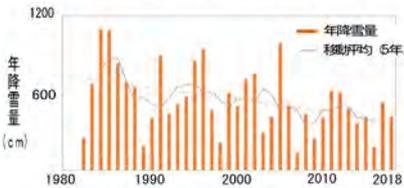
- 【現状を上回る温暖化対策をとった場合】
- ・年平均気温：約2.9℃上昇
- ・猛暑日数は年間14日増加。熱帯夜は年間23日増加。
- ・1時間降水量50mm以上の雨が夏に顕著に増加。20世紀には観測されなかった冬季にも観測されると予測
- 【現状のまま・現状を上回る温暖化対策をとらなかった場合】
- ・年平均気温：4.3℃上昇
- ・猛暑日数は年間35日増加。熱帯夜は年間60日増加。
- ・1時間降水量50mm以上の地点は2倍以上増加。

「琵琶湖の深呼吸」が起こらない

このままこの現象が起こらなければ、水深の深いところに住む魚などの生物に酸素が届かず、大量死する恐れがあるそう。

また、生徒のアンケートで身近な環境の変化を聞いたところ「雪が少なくなった」という声が多かった。これについても伺うと、20、30年前と比べて明らかに降雪量は少なくなっているとのこと。「この10年で彦根では13cm、長浜市柳ヶ瀬では92cm減っています」と答えてくださった。

長浜市(柳ヶ瀬)年降雪量(*3)



▲長浜市柳ヶ瀬の降雪量の変化。徐々に減少しているのが見て取れる。

生徒に聞く 環境の変化

最近雪が減った

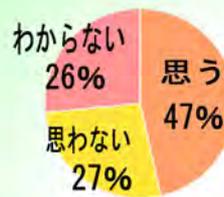
異常気象が多くなった

夏が暑くなった

▲温暖化によって増加した南方系の蝶(*4)

行動すれば変えられる

最後に高校生に向けて「高校生の頃から環境について考えていくことが、環境問題の解決につながると思います。生活スタイルを見直し、例えば照明をこまめに消すなど自分ができることをしてほしい。私たちが行動すれば状況は変えることができます」とメッセージを下さった。



レジ袋の有料化は環境に効果があると思うか

生徒が26%であった。循環社会推進課の澤井さんにレジ袋の有料化の意味について伺うと「レジ袋によるCO2の排出量は全体の数パーセントですが、日本人の生活に最も身近なレジ袋を有料化することによって、本当に必要なものなのかどうかというのを考えることに意味があると考えられます。そこからさらに他のプラスチック製品についても使い捨てていいのかわからないと思いませんか」と話された。エコバッグについては「(出かけるときは)スマホとマイバッグ、というくらい常に携帯をしてほしいと思います」と話して下さった。



▲Zoomを通して取材を行う新聞部員

(*1～4は滋賀県温暖化対策課の資料より)

虎高から未来へ

MLGsを知っていますか？



虎姫高校から

MLGsとは？

MLGs (Mother Lake Gals) とは、琵琶湖版のSDGsである。琵琶湖を切り口とした2030年の持続可能社会への13の目標が設定されている。



▲滋賀県限定のnanacoカードを手を持つ一伊達さん。滋賀県内のセブンイレブンで買うことができる。

今回、MLGsについて滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課の一伊達(いちだ)て哲さんにお話を伺った。MLGsの始まり

～変えよう、あなたと私から～

今年の3月末に終わったため、替わりとしてMLGsが始まった。MLGsも同様に県民の意見を取り入れられている。また、一伊達さんは「MLGsを通して、SDGsを自分事として落とし込んでほしい」と語ってくださった。県外の人も意識できるよ



- 1 滑らかさを感じる水に
- 2 豊かな魚介類を取り戻そう
- 3 多様な生き物を守ろう
- 4 水辺も湖底も美しく
- 5 恵み豊かな水源の森を守ろう
- 6 森川里湖海のつながりを健全に
- 7 琵琶湖のためにも温室効果ガスの排出を減らそう
- 8 気候変動や自然災害に強い暮らしに
- 9 生業・産業に地域の資源を活かそう
- 10 地元も流域も学びの場に
- 11 びわ湖を楽しみ愛する人を増やそう
- 12 水につながる祈りと暮らしを次世代につなぐ
- 13 水とつながる祈りと暮らしを次世代につなぐ

【ゴールカラー】
日本の伝統色を使い、生活に溶け込むことを目指している

【ロゴマーク】
琵琶湖を中央に配置し、周囲は13のゴールカラーにしてある。また、円形は琵琶湖を取り巻く湖国、滋賀地球を表現している。

世に出るきっかけになれば

しを次世代にも追加された。

の事業をやっていると、若い人たちに踏み台にされたいと思います。今回の事業も大学生が仕切っていて、このような機会はなかなかできないので、県としても協力したいです。MLGsの取り組みのような県の事業を踏み台にして、若い人たちが世に出るきっかけになり、やりたいことをやってほしいです」と話してくださいました。

滋賀県内各地で活動



▲部員が撮った「琵琶湖と環境破壊」

地域の一員として

また辻村世名くん(21)は「生徒会の取り組みとして、使わない紙の回収ボックスを置くのはどうかと思います。自分の地域のための活動だと始めやすいので、こういった活動が増えたらみんなのSDGsの意識が高まるのではないかと思います」とにこやかに話してくださいました。

WEBで発信



7月31日に大津市でMLGsを広げる活動としてライター講座が行われた。県内の大学生や高校生、本校の新聞部6名が参加した。新聞の記事作成の仕方、写真の撮り方について学んだ。実際に琵琶湖まで歩き、学んだことを活かして写真撮影を行った。また、約1ヶ月かけて2人ペアで取材、記事作成を行い、発表をする。参加者が作成した記事はWEB上で公開される。

記事の内容の一部は次のページに記載されている。



▶岸の形がS字に見えるように工夫をして部員が撮った琵琶湖の写真

100th Anniversary

つながる未来

小さなことから社会貢献を

7月7日(水)の学園祭で、SDGsの取り組みとして古着や古本の回収が行われた。そこで、回収されたものの行方を

7月7日(水)の虎祭で開催されたSDGsの取り組みでは、古着や古本の回収が行われた。

企画に携わった生徒会の沢田琥珀くん(2-1)に取組みを行ったきっかけを尋ねると、「コロナ禍で虎祭をやらせてもらえないことの感謝として何か社会貢献しようと考え、始めました」と答えてくれた。また、古着や古本、小物類は全て合わせて200点程度集まったそうだ。



▲回収された古着や古本、小物類の数々

この活動だけで終わらせたくはない

れ、現地で選別・販売が行われるそうだ。その現地の売上の一部を寄付してポリオワクチンに変えていくという。また、自分たちの活動がどう生かされて欲しいか聞くと「SDGsの問題を学んでいる中で、自分たちだけではどうしようもない課題だと感じている人が多いと思います。そんな中で、小さなことでも貢献することで様々な広がりが出ていき、世界全体がSDGsの17の目標を意識するようになるのではないかと考えています」と答えてくれた。また、沢田くんは「個人的にはこの活動だけで終わらせたくはない。生徒会なども巻き込み、また新しいことに挑戦していきたいです」と話してくれた。



▲企画に取り組んだ生徒会の沢田くん

ポリオってなに?

ポリオは“ポリオウイルス”による急性のウイルス感染症。一般的には小児麻痺と呼ばれ、感染しても目立たないが、稀に四肢に麻痺が残ることや、重症の場合は死亡することもある。

発展途上国の子供たちに教育を

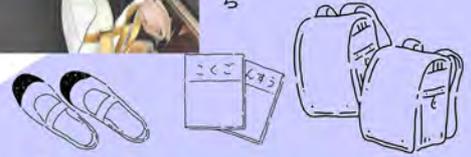
虎高生も大いに社会へ

学園祭で生徒会と図書委員会の連携企画として開催された「チャリブ・プロジェクト in Toraimae」は、学校から寄贈した本の売却代金を寄付として、さまざまな支援活動に役立てるプロジェクトだ。虎姫高校では、特定非営利活動法人ルー・トゥ・リード・ジャパンに寄付される。ルーム・トゥ・リードは発展途上国の子供たちに読み書きの習得と男女平等の教育機会から変えていく国際組織である。プロジェクトのきっかけを作った杉山将崇先生に、

プロジェクトへの思いや願いを伺うと「きっかけを作ったのは僕ですが、決めたのは生徒会の皆さんです。高校生は自由だし失敗しても良いけれど、大人になると責任が伴って中々失敗しにくくなります。これから人生の中で壁にぶち当たるところもあると思うけど、内にこもらずにチャレンジして欲しい。また虎高生も、もっと大いに社会に出て欲しいです」と話してくださった。



▲古着を詰める生徒たち



思い出のランドセルを寄付 もらった人が幸せになって欲しい

学園祭当日、智徳館では回収された古着と古本が展示された。ランドセルを3つ寄付した弓場かれんさん(2-1)に寄付した理由を聞くと「6年間の思い出が詰まったランドセルを捨てることはできなかつたし、以前からどこかに寄付して使って欲しいと思っていたからです」と答えてくれた。

また、寄付したものがどうなって欲しいか聞くと「今後ランドセルを必要としている人に届き、もらった人が幸せになって欲しいと思っています」と笑顔で話してくれた。弓場さんの保護者の方は「おばあちゃんに買ってもらったランドセルで娘たちは6年間元気に学校に通うことができました。まだまだ使えるランドセルを誰かに使ってもらえるなら、捨てるよりは良いと思いました」と話してくださった。



▲寄付されたランドセル



生徒会の願い

目標達成を目指す

生徒会の二宮遥香さん(2-1)は「ただ漠然とした募金というより、今回のように少し趣向を変えて、より興味を引き付けるような企画ができればいいなと思います」と笑顔で話してくれました。

成目標が滋養に住む私にとって大変分かりやすい身近なものなので、自分も地域の一員として目標達成を目指したいと思います」と明るく話してくれました。

く話してくれました。



MLGs X 長浜

「体験」

で学ぶ滋賀の自然

湖北野鳥センター



湖北野鳥センターは、湖北野鳥・湿地センターの植田潤さんに取材を行った。



▲野鳥観察用の望遠鏡が20台以上用意されている。解説員が常駐しており、質問もできる。



▲取材に応じてくださった植田潤さん

「湖北野鳥センター」は、はく製や生態飼育などの展示のほかに、野鳥観察という体験を通して水鳥の保護や自然環境の啓発が行われている自然史博物館だ。「湖北水鳥・湿地センター」は、琵琶湖が「ラムサール条約」に登録されたことを受け、1997年に併設された。

団体向けのプログラムでは、水田でエサを食べるコハクチョウの群れの観察や、琵琶湖の浅瀬に入りながらの自然観察が行える。直接的な体験を通して見たり聞いたり感じたりすることで、水鳥をはじめとした琵琶湖の自然環境を学ぶことができるのが大きな特徴だ。

湖北町の人は昔から、琵琶湖の財産の一つである漁業や魚を守るため、あえて遠浅の湖岸を埋め立てずに守り続けてきたという。センター前の湖岸では、昔から残され続けてきた「原風景」を見ることが出来る。琵琶湖の中に木が植わった小島のある風景が見られるのは現在はこの地域だけなのだそう。

かつての人々は小島の木を、薪や何かを作る材料などにするために定期的に伐採していた。昔は木を切るスピードが遅いので、伐採直後の箇所やまだ伐採されて

見・聞・感のプログラム

「守るべき琵琶湖」

いらない箇所、ある程度幅間が経った箇所などが生まれ、結果的にそれらの異なる環境が生態系を維持していた。琵琶湖には、このように周りに人がかかわって成立している自然が多く存在する。そして、それらは時代ごとの人々の動きによって大きく変わってきた。そのため、どの時代の琵琶湖を「生態系保全」のゴールに設定するかポイントになってくる。

「保全」について植田さんは「人がいない時代の琵琶湖をゴールにするとヤモリやヨシなどの生物が減少する。人が自然を利用した時代の琵琶湖をゴールにすると、シカなどが減少すると思う。現状維持を考えたら、外来種によって在来種が危ない。どこにゴールを定めても損をする生物と得をする生物が出てくるので、覚悟をもって誰かが決めて動くしかない」と説明してくださった。

MLGs X



▲富田酒造さんのおすすめで、お客さんにも人気の純米酒。大人になったら試してほしい。

富田酒造さんのおすすめで、お客さんにも人気の純米酒。大人になったら試してほしい。

「富田酒造」は長浜市木之本町にある480年続く酒蔵だ。湖北、長浜の地域のお米や水を使い、地酒の「地」の部分を大切に地域物100%の地酒を作ることを目指してお酒を作っておられる。

お酒造りには滋賀は米と水が欠かせない。そのため、米どころであり、豊富な水がある滋賀はお酒造りに適した場所だそう。

富田酒造

うだ。15代目店主富田泰伸さんは「いろいろな人やストリーが絡まったものをボトルに詰め込み、どこへでも移動できるようにする。それを飲んだ時にこの場所に思いをはせてもらえるようにしたい。この日本酒が地域の情報発信のツールになればいい」と思いを語っていた。

なんでも食欲に学んで欲しい

虎姫高校のOBでもある富田さんは、虎姫高校生に向けて「こうじゃないといけないとまだまだ思わずに視野を広く持つてほしい。役に立たないと思っていることでも、生きていくうえでどこかで生きていく。これはいらないと削らずにいる人な人と会い、人との出会いを大切に張ってほしい。」とメッセージを送ってくださった。



▲年々おいしくなる日本酒造りについて熱く語る富田さん

長浜市木之本町にある富田酒造(七本槍)の富田泰伸さんに取材を行った。



地域を発信

▶Tシャツや酒粕生姜ラトなど、お酒が飲めない人や子供にもぴったりの商品が多く並ぶ



▲酒蔵や酒屋で吊るされること多い杉玉が飾られた富田酒造



100th Anniversary

Goal 2
豊かな魚介類を
取り戻そう



▲余呉湖の景色を一望できるお部屋

Goal 9
生業・産業に
地域の資源を
活かそう

余呉湖の絶景を見渡せる場所に位置する「徳山鮎」。ここでは店主で発酵料理人の徳山浩明さんがこだわり抜いた近江の郷土料理「鮎鮎(ふなずし)」。や、旬の地元食材を使った発酵料理を堪能できる。また、四季折々の景色を眺めながら宿泊できるお店となっている。

Goal 12
水とつながる
折りこ暮らしを
次世代に

滋賀の清らかな水を巧みに取り込む文化の一つに鮎鮎がある。しかし琵琶湖の環境悪化などで価格が高騰し身近ではなくなっている。そういった中で、徳山浩明さんは滋賀県の発酵食鮎鮎を通して、世界から注目されている発酵文化の素晴らしさを日本に留まらず世界にも発信されている。これらもまた、MISの12番と13番につながっている。

Goal 13
つながりあって
目標を達成しよう

余呉町川並にある「徳山鮎」(とくやますし)の店主・徳山浩明さんにお話を伺った。



▲お店の外観(このコーナーの写真は徳山鮎提供)

発酵料理人・徳山鮎店主
徳山浩明さん

滋賀の食文化「鮎鮎」を長年の研究により独自の発酵料理「鮎鮎」へと進め、独自の発酵文化を継承し続けてきた。また、発酵の魅力を発信している。

滋賀の発酵文化「鮎鮎」 世界へも発信

滋賀の誇れる食文化の発信。高橋生へ「人生を選択していく上で、よりたくさんの方に触れて選択肢を増やしていくことが大事。今回の記事を読んでもらって、少しでも発酵に意識が向いたら、身近な発酵食品について触れてもらえると嬉しいです」とメッセージをくださった。

自然の恵みを活かす
徳山鮎では、鮎鮎の主な原料のニゴロブナのほかヒワマスなどの地元で捕れる湖魚料理を提供している。また、周辺は山々と田園風景に囲まれ自然の恵みを感じる場となっている。これはMISの2番や9番に通じている。



鮎鮎

従来の鮎鮎を覆した独自の発酵料理

鮎鮎にしに苦手意識がある人を心躍らせるような気品のあるお皿や、盛り付け。鮎鮎独特の強い酸味は上品に残り、うまみは凝縮されている。

選択肢をたくさん持つことが大事

店主の徳山浩明さんは高橋生へ「人生を選択していく上で、よりたくさんの方に触れて選択肢を増やしていくことが大事。今回の記事を読んでもらって、少しでも発酵に意識が向いたら、身近な発酵食品について触れてもらえると嬉しいです」とメッセージをくださった。

長浜

人と人が触れ合う場所を



「長浜まちの駅」

Goal 9
生業・産業に
地域の資源を
活かそう

トとでも書いてもらう。実際に商品の近くに掲示されている。まちの駅を運営するなかで大切にしていることは「雇用の喪失の防止」だそうだ。また、お店の方は「少子高齢化が進む長浜市内中心において、人と人が触れ合う場所を目指しています。まちの駅がそんな場所になったらと思います」と話してください。

長浜駅前の商店街の大手門通りにある「長浜まちの駅」に取材を行った。

荷がなくなってしまう、陳列棚に空きがあるところも見られた。

地元の方から観光客まで

「長浜まちの駅」は地産地消の取り組みを推進する農産物の販売で、2009年にオープンした。主に長浜市、米原市、高島市の農産物や加工品を販売している。中には長浜農業高校生徒が製造した商品もある。売れ筋商品の中には湖魚の佃煮や近江カレ、赤こんにゃくといった地元で縁のある商品がランクインしている。また、コロナの影響で観光客がほとんど来なくなってしまうとお店の方は話してくれた。商品の前に中学生が作成したポップが貼られている



商品の前に中学生が作成したポップが貼られている

長浜から広がる ピンクマスク

「いじめ・差別の撤廃」同じ目標を掲げた有志たちがピンクマスクデー実行委員会を結成した。この記事は、ピンクマスクデー当日までの活動記録をまとめたものである。

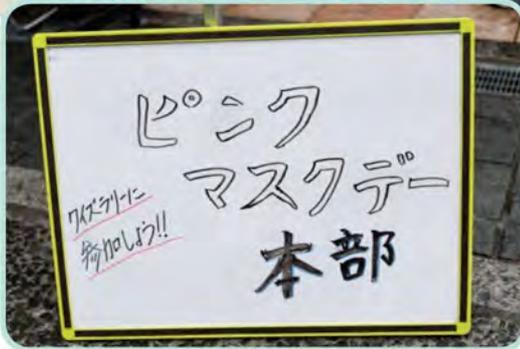


▲実行委員会とクイズラリー参加者による記念写真

2022・2・23 ピンクマスクデー当日

当日は、ピンクマスクデーや黒壁スクエアの各店舗にまつわるクイズラリーを実施した。朝から雪がふっていたが、屋には日も差し込み、たくさんの参加者が黒壁に訪れた。午後からは長浜小学校の体育館に集まり、完成したモザイクアートとともに記念写真を撮影した。

齋藤甚聖くん（3年）は「社会を変えるための行動を起こすには、自ら考え、率先してはたらくことが非常に重要だと感じた」と思いをつづった。



2022・2・22

▲実行委員会と撮影に参加した虎高生

前日祭でCM撮影

イベントを翌日に控え、虎高生がそれぞれ差別撲滅に対する思いを書いてもらい、CM撮影や記念撮影を行った。モザイクアートも完成した。

SDGs QUEST みらい甲子園 最優秀賞



「ここからがスタート」

SDGsを用いたアイデアで社会の課題を解決する「SDGs QUEST みらい甲子園関西エリア大会」において、ピンクマスクデーについて提案し、最優秀賞を獲得した。実行委員長の水田琥珀くん（3年）は「賞を取ったことがゴールではない。ここからがスタートとなるように活動を続け、広め、発展させていきたい」と意欲を示した。



2022・2・8,13

黒壁との打ち合わせ

クイズラリーの問題の設置など、協力してもらえらる黒壁の各店舗に、当日のイベントやピンクマスクデーについての説明を行った。



いじめのない世界

デーの軌跡



2021・11月 公式Instagram 開設

実行委員会はコンサルティング班、マーケティング班、プロダクト班に分かれて活動している。公式Instagramはマーケティング班が運営している。週3回(月、水、金)活動報告を行っている。

2021・10・11 ピンクマスクデー 実行委員会・発足



新型コロナウイルスがもたらしたコロナ差別や学校・職場でのいじめは国内外で問題になっている。ピンクの衣服を着ていじめ反対を訴えるピンクシャツデーを参考にして、ピンク色のマスクを使用した「ピンクマスクデー in Nagahama」が計画された。

同月29日にクラウドファンディングページが完成。本格的に活動がスタートした。



2021・12・23 2022・1・24 黒壁との打ち合わせ



株式会社 黒壁の田中猛士社長・広報室長の佐藤泉さんと2回の打ち合わせ。マップを見ながら具体的なイベント範囲などを話し合う。



2021・12月 マスクデザイン決定 合計2350枚を発注

オリジナルのピンクマスクが完成する。クラウドファンディングのリターンで、市内の小中学生には無料配布された。ロゴは橋本歩さん(3年)がデザインした。

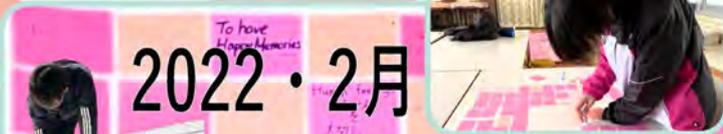
マスクの発注を担当した音羽雄登くん(3年)は「発注先やデザイナーとこまめに連絡を取り合うのが大変だった」と振り返る。



2022・2・8 長浜小学校で 特別授業

長浜小学校の6年生に向けて、実行委員が授業者になり、クラスごとに出張授業を行った。「違いを認めよう」というテーマで、答えのない問いについてみんなで考えたり、友達と自分との違うところを考えて認め合ったりした。

授業を行った今井陽南太くん(3年)は「いくつも質問を用意しましたが、積極的に真剣答えてくれたのが嬉しかった」と感想をくれた。



2022・2月 モザイクアート作成

コンサルティング班は、市内の小中学生とのタイアップ企画をすすめた。ピンク色の付箋にいじめ・差別に対する思いを書いてもらい、1枚の大きなモザイクアートにした。市内近隣の小中学校9校、計2043名の生徒が賛同してくれた。



ビジネスプラン 全国ベスト100

完璧な消しゴムカバー

「ビジネスプラングランプリ」に新聞部が4班に分かれそれぞれプランを応募し、うち3班のプランが全国ベスト100に選出された。

12月19日に京都産業学会館で「ビジネスプラングランプリ」発表会「京滋」が開催され参加した。

たくさんの細かい工夫が

ビジネスプラングランプリは、若者の創業への意欲を活性化させるために「日本政策金融公庫」が企画した。

今回、全国ベスト100に選出された3班のプランは「無くならず転がらない！完璧な消しゴムカバーでMLGsを推進」というもの



▲消しゴムカバー、ノート、

だ。使うたびに短くなる消しゴムにあわせ、カバーを切らなければならぬことが面倒に感じ、このプランを思いついた。

薄いゴム状の消しゴムカバーを用い、それをめくるように使っていくことで、毎回切らなければならないという問題を解決できる。

また、この製品は文房具とすることで県内の小中高生をターゲットにしている。

ヒントは身近な所に

プランを考えた音羽雄登くん(2-2)は「このプランを通じて、ビジネスのヒントは身近なところに転がっていることを知りました。これからはこのような視点を大事にしていきたい」と話してくれた。

滋賀県版SDGsであるMLGsの13色を使うことでMLGsを推進する。加えて、カバーに磁石につくものを混ぜることでノートにクリップをつければ、一緒に色々な所へ持ち運びができるようになっていくことなど、細かい工夫が施されている。

信じ続けられれば実現できる

今回の発表会では外部から、牧野成将さんを迎え講演をしていた。牧野さんは「Monozukuriベンチャーズ」を企業し「Monozukuri」で世界に貢献をモットーに活動されている。

牧野さんは「夢を信じて大切に続けられれば実現できると思う。そ

Monozukuri ベンチャーズ

牧野成将さん



▲講演の中で日本と世界の差やこれからのビジネスの重要性について説明された

して挑戦し続けていければ、新しい夢も見えてくるので、是非挑戦することは続けてほしい」と話された。

▲賞状を片手に笑顔の虎姫高校3班



新聞部のアイデア大公開

1班 ドローンで本を多くの人に
4班 イケメン武将で小谷に観光客を

1班からは図書館の本をドローンで届けるサービスが出された。図書館に行くことが難しい人をターゲットとしている。

今井陽南太くん(2-4)は「自分の身の回りにも気づかなかった課題があることがわかった」と話してくれた。

4班はオリジナルの武将イラストを作成し、体感型ゲームにより武将と触れ合えるプランを考えた。

松島彩子さん(2-4)は「自分の描いたイラストを使用したプランを考えるのが楽しかった」と話してくれた。



▲今回、ビジネスプランを応募するにあたって何度も教えに来てくださった日本政策金融公庫の村上尚史さん。ビジネスを考えるにあたってアイデアを考えることの重要性を話してくださいました。

2班 ITで農業を手助け

2班ではITを活用した農業の代行サービスを発案した。日本の農家減少に歯止めをかけようという思いが込められている。

山田航也くん(2-1)は「収支計算をするのが初めてだったので難しかった」と話してくれた。

▲パワーポイントを使ってプレゼンを行う3班



とてもいい刺激になった

本会では京都、滋賀でベスト100に選ばれた高校がそれぞれのプランを発表した。聴覚障害者の人でも参加できるオンラインの授業や、人形と仮想空間を組み合わせた、世界の文化を学ぶことのできるプランなど様々なものがあった。全国ベスト10に選ばれた、「『梅え

京都、滋賀から様々なプランが

トマト』の栽培とブランド化プロジェクト」というプランがあった。梅平を作る際に出る廃液で効率よく、おいしいトマトを栽培できるようにするプランだ。

山岸美緒さん(2-4)は「同年代の子の発表を聞いて、いい刺激になりました」と感想をくれた。

新聞部が考えたビジネスプラン2022

長浜の

お米でできたプラ製品で地域の魅力を発信

織田信長



豊臣秀吉



浅井長政



磯野員昌 遠藤直経



浅井家家臣



赤尾清綱



長浜出身
石田三成



三成の盟友
大谷吉継



VS
姉川の戦い

浅井三姉妹



資源の地産地消

海外から石油を購入して、プラスチック製品を作る従来のやり方とは違って、地域の材料を使ってプラスチックを作るところにとっても魅力と可能性を感じた。エネルギーを地域で地産地消できるので、二酸化炭素排出をおさえるだけでなく、地域で人や物、お金が回るところも、地域には魅力だ。過疎化する田園地域が自分たちで経済を回せる好循環に転換できるなら、地域の活性化にも大いにつながると思う。

新聞部で作ってきたイラストを活用し、歴史ある地元の魅力を自分たちで発信したい。

イラストはすべて
虎姫高校新聞部作です

SDG S × 長浜 新聞部企画中のグッズ



クリアファイル

脇坂安治



片桐且元



長浜出身七本槍

イケメン武将で

くず米からお土産品に



発行

にゅーとら!

滋賀県立
虎姫高等学校

新聞部

脱炭素化につながる「ライスレジン」を知り、6月に自分たちで田植えを行ったところから、この稲からできるプラスチック製品を作って歴史ある長浜を発信したいと考えた。

一石三鳥

長浜市では今年の3月に2050年に二酸化炭素排出をゼロにする「ゼロカーボンニュートラル宣言」が出された。脱炭素ゼロを進めるために、お米からプラスチックを作るバイオマス燃料「ラ

ライスレジン」に注目した。「ライスレジン」を使うと従来プラ製品よりも二酸化炭素排出が約30%減らせる。長浜は水田風景が広がる田園地帯だ。地域のお米を使えば、化石燃料を使わずにすむので、脱炭

素化にも寄与できるだけでなく、お米という地域の資源をエネルギーに変えるので、資源を地域で循環することに

なる。さらに、その製品で地域の魅力を発信できれば「一石三鳥」ならぬ「一石三鳥」だ。地域の魅力を発信する製品としては、昨年から虎姫高校新聞部で取材を続けている地域のイケメン武将のイラストを使ったものと考えた。高校生が使いたいプラ製品として、シャーパーンシル、定規、くし、キーホルダー、クリアファイルをあけ、それらをお土産品にし、さらに、観光地の販売店で使うビニール袋も加える案を考えた。

歴史ある長浜

虎姫高校の近くには浅井長政の居城、小谷城や信長軍と浅井軍が戦った姉川の古戦場がある。新聞部では姉川の古戦場や小谷城、小谷城を攻め落とすときに信長や秀吉が陣を置いた虎御前山、秀吉の出世城となった横山城、そして関ヶ原の合戦の主役となった長浜出身の石田三成、賤ヶ岳の戦いで名を馳せた地元出身の片桐且元などを

削減と、焼却時の二酸化炭素の排出削減に貢献できる。今回は精米時に発生する「くず米」(ふるいにかけたときに落ちる未熟粒)を使おうプランにした。

耕作放棄地対策にも

また、このような取り組みは長浜だけでなく、水田の広がる地域では共通して活かせる。長浜市では中山間地を中心に耕作放棄地が増えつつある。新しいエネルギーとしてお米を使用すれば、高齢社会の中で、耕作放棄地が増えている問題の解決にもつながるはずだ。

取材した。新聞で記事にするときには武将をイラストにして、「イケメン武将」として紹介し、歴史が好きでない人にも読んでもらえるように工夫をした。イケメン武将で多くの人に長浜の魅力に触れてほしい、その一つのきっかけになれば、と考えている。

全国ベスト100に選出

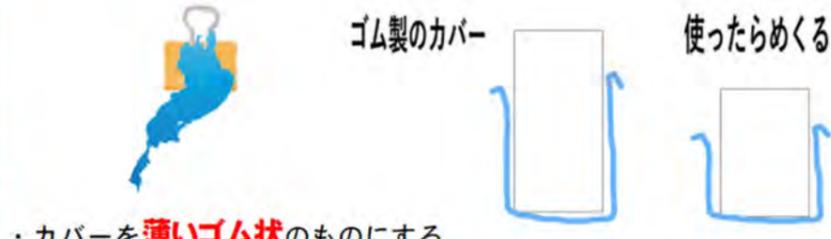
高校生ビジネスプラングランプリ

新聞部が考えたビジネスプラン2021

なくならず転がらない! 完璧な消しゴムとクリップとノートで

MLGs を推進

文具で身近に



- ・カバーを**薄いゴム状**のものにする
→毎回切らなければならないという問題を解決!
- ・**磁石**につくようなものを混ぜる
→ノートにクリップをつければ同時に持ち運びが可能になる

きっかけは…
普段から消しゴムを使う中で使う度に消しゴムが短くなって、消しゴムのカバーを切ることが面倒くさくなったり、また消しゴムが

すぐ行方不明になったり、落とした際に転がっていつたりすることがどうにもならないかと考えていた。その時にこのアイデアが浮かんだ。

新聞部では、なくならず、転がらない消しゴムのカバーを、消しゴムがくっつくクリップやノートとセットで販売して、滋賀県が取り組むMLGs (マザーレイクゴールズ・SDGsの滋賀版)の推進につなげる案をビジネスプランとして考えた。販売にはMLGsの説明をつける。消しゴムカバー、クリップ、ノートにMLGsの13のカラーをイメージした13のカラーを使うことによって、琵琶湖の環境を保全する意識を高めたい。

転がらない、なくならない消しゴム

MLGsと関連づけられるかも!

消しゴムにクリップとノートも!

好きな色を選ぶ時にゴールも意識!

カバーの色をMLGsの目標に使われている色に

MLGsの13の色とゴール



文具を買う

おしゃれな色!

MLGsを知る

環境に取り組む意識が広がってほしい

MLGsを知ってほしい

色を選ぶ楽しさも

また、2021年にMLGsを発信する滋賀県のライター講座に参加し、MLGsを推進する企業などを取材していく中で、MLGsを皆にもっと知ってほしい、という思いを持った。



素敵な色がそろったリエデンノート

大切にしたい「琵琶湖を守りたい」キモチ

SDGsについては授業で学ぶ機会が多く、多くの人に浸透していると思うが、MLGsはまだ知られていない。でも、MLGsは琵琶湖という身近な環境に目を向けているので、SDGsよりも取り組みやすいと思う。

滋賀では小学生の時に全員が学習船「うみのこ」に乗って、1泊2日の琵琶湖の旅をする。琵琶湖の環境を守りたい気持ちは生徒の多くが持っている。文房具は学生にとっては身近なものだ。いつも使う文房具を通してSDGsの滋賀版であるMLGsについても多くの人に知ってほしいと思う。と同時に、自分たちもMLGsの発信に少しでも役に立ちたいと考えている。



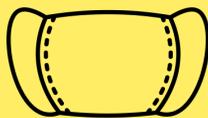
発行
にゅーとら!
滋賀県立
虎姫高等学校
新聞部





2月最終週の水曜日 「ピンクシャツデー」

- 「ピンクシャツデー」は、2007年、カナダの学生2人から始まったいじめ反対運動です。ある日、ピンクのポロシャツを着て登校した少年が「ホモセクシャルだ」といじめられました。それを聞いた先輩2人が50枚のピンクシャツを購入、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼びかけました。翌日学校では呼びかけに賛同した数百名の生徒がピンクのシャツや小物を身に付けて登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなったそうです。
- このエピソードはSNS等で世界中に広まり、今では70カ国以上でいじめに反対する活動が行われています。カナダで最初にこの出来事があった日が、2月の最終水曜日でした。それ以降、2月の最終水曜日について考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日としています。



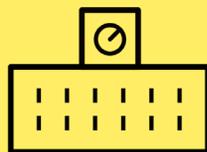
滋賀県でも

「ピンクシャツデー」を。

- いじめ、差別、人権問題は滋賀県でも取り組む必要があります。新型コロナの影響もあり、コロナ差別というワードまで出てきました。住みよい地域づくりを目指し、滋賀県でもピンクシャツデーを開催したいと思います。

長浜市の小中学校と協力して みんなでより良い地域を。

- 虎姫高校ではシャツではなく、マスクを用いて運動の参加意欲を示したいと考えています。各学校の生徒会と協力し合い、運動に賛同してくれる市内すべての子どもたちに、虎高オリジナルピンクマスクを配布します。



教育から地域を変えたい。

- 「ピンクマスクデー」といういじめ撲滅や、多様性の尊重を目指す教育活動によって、さらに地域全体で多様性を尊重し、誰もが住みやすい街づくりにつながるような活動をしたい。そんな思いによって、今年は教育に焦点を当てて活動しています。



Schedule (2022/11~2023/2)

10月 11月 12月 1月 2月

11日 委員会発足	5日 県立大学 12日 立命館大学	マスクのデザイン考案 タイアップ団体募集	CF終了 マスクの作成 マスクの配布	虎高マスクの 配布 前夜祭の開催
29日 CFページ完成	CFページ公開 タイアップ校募集	タイアップ校 小中生徒会会議	小中生徒会活動 スタート ポスター配布	2/23「ピンクマスクデー」開催
15.18.22. 25日 定例会				

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



資金に関して



- クラウドファンディングによってマスク作成の資金を集めます。
30万円程度の費用が掛かると考えています。このイベント開催にあたり、ぜひとも多くの人にご協力願いたいと思います。融資に協力していただいた方にはマスクの送付とイベントへの参加権がリターンになっています。

多くの協力者を募集



- 2023年2月23日にタイアップしてくださる企業さま・団体さま募集！
当日は長浜駅前にマスクをつけたイベント参加者が多く訪れます。長浜市の良さを再認識する良い機会となります。ピンクマスクデーに関するポスターを配布させていただきます。また、タイアップ企画も募集です。

実行委員会について

SDGs

- 虎姫高校公認のピンクシャツデー実行委員会（生徒会メンバー含む）発足しました。
現在虎姫高校にはSDGs委員会が存在します。この企画はSDGsの5・10・11・16の目標達成を目指しています。また、これら目標達成に協力したいという有志メンバーによって構成されています。（IB生含む）

■ オリジナルピンクマスクの配布と大きな作品作りについて

市内の小中学校の生徒会、児童会と連携し、人権やいじめ問題について考える機会を設けました。多くの学校は12月1週目の人権週間で行われる人権学習において、「ピンクシャツデー」を取り上げてもらいました。また、その授業の感想やいじめ、差別に関するメッセージをピンクの紙に書いてもらい、それを使ったモザイクアート作成にも取り組みました。

■ 長浜小学校で出張授業

2月には高校入試があり、高校生は学校に登校できない期間ができます。その期間に高校生が小学生に対し、出張授業を行うことができました。内容は「多様性を認め合う」です。

連携した学校

長浜市立長浜小学校
長浜市立南中学校
長浜市立東中学校
長浜市立西中学校
長浜市立湖北中学校
長浜市立虎姫学園
長浜市立木之本中学校
長浜市立びわ中学校
長浜市立余呉小中学校



■ 黒壁スクエアと連携して当日にイベントを企画

いじめや差別を撲滅することを目標にしています。この目標達成への最短距離は、みんなが地元長浜のことを大好きになることではないかと思えます。そこで、黒壁スクエアとタイアップし、黒壁スクエア・長浜・ピンクマスクデーに関するクイズラリーを企画しました。ピンクのマスクを装着する場面を設定するとともに、楽しく、長浜のことをより深く知りながら運動が行えます。また、このイベントにたまたま出会った観光客にも参加していただきました。

協力企業一覧

まちづくり役場
黒壁ガラス館
黒壁ガラススタジオ
黒壁オルゴール館
なべかま本舗
黒壁AMISU
MONOKOKORO
古美術・西川
翼果楼
茂美志屋
びわこレストランROKU
スタンドガラス館
黒壁体験教室
分福茶屋
黒壁プリン・近江牛
毛利志満【大橋珍味堂】
96CAFE
カフェ叶匠壽庵
そば八
陶芸工房 ほっこくがま
飲茶食坊 萬華郷
海洋堂フィギュアミュージアム



SDGs

■ 情報発信とコンテストへの参加

この取り組みは、SDGs達成に有意義ではないかと思い、メディアで発信していただいたり、企画コンテストに出場したりもしました。光栄なことに下記のような賞をいただくこともできました。



SDGs QUEST
未来甲子園プレゼンテーション動画

その他資料



■ ピンクマスクデー実行委員会公式HP



■ 長浜小学校連携出張授業動画



■ 関テレ「報道ランナー」出演VTR



■ ピンクマスクデー実行委員会公式インスタページ



■ クラウドファンディングページ